

# IT'S A GOOD "LOCATION" HOUSE

## 暮らしに景色をとりいれた ロケーションハウス

窓からの景色が疲れを癒やしてくれたり、元気やパワーが湧いてきたり  
そんな暮らしってなんてぜいたく～!!うらやまし～!!!!

今回の巻頭は、ロケーションがとっても素敵な家特集!  
都会では味わえない山陰ならではのロケーションを活かして  
みなさんホントに贅沢な暮らしを送られていますよ。  
どのお宅も早く帰りたくなるお家ばかりです。

今回も、紙面では伝えきれなかったたーくさんの写真や裏話を  
mekkeのHPに載せてるのでこちらも是非チェックしてみてください☆

建てたい家が見つかるかも!  
めーーっけ!!って

### 素敵で楽しい!プレゼントが当たる!!

アンケートにお答えいただくと抽選で、豪華賞品がもらえちゃうよ!  
詳細は後ろのページをご覧くださいね!



[mekke.applive.com](http://mekke.applive.com)

暮らしメック 検索



# 海に見える家

>IMAGE WORKS

水平線まで続く日本海を、まるで独り占めしたかのような竹口邸。設計したのは「IMAGE WORKS」を主宰する建築家・岩田和人さんです。この別荘のような家で、悠々と暮らしを楽しむ女性をご紹介します。

## ど

こまでも続く砂浜に、打ち寄せる波の音。白波の日本海がきらめいています。毎日、この海を見ながら暮らすことができたなら・・・そんな夢を叶えたのが鳥取県大山町の竹口邸。地主の竹口亜紀子さんは実家の隣にあった家屋が老朽化したので取り壊し、5年前に家を新築しました。

「設計のコンセプトとして意識したのは別荘のような家、巨大なワンルーム、海が見えるロケーションでした。」

海岸沿いに建つ竹口邸はコンパクトな無駄のない設計で、2階が玄関になっています。これは、雨や雪などを家の中に入りやすくするため。建築家・岩田和人さんの細やかな配慮によるものです。

玄関を入ると壁際に、この家の図面がインテリアとして飾ってありました。手書きの図面の名手として知られる岩田さんの作品です。設計に対する想いやイメージが手書きの線から、温もりとともに伝わってくるようです。

SPECIAL FEATURE

IT'S A GOOD LOCATION HOUSE



owner / 竹口さん

architect / 岩田さん

自分の趣味趣向をふんだんに取り入れた家ができるとっても満足しています。

ロケーションを最大限に活かし、地主の夢を叶える家づくりを大切にしたい。



OWNER 自分が帰りたくなる家を建てました。  
ここから見る海に癒されています。

海

の見える家、竹口邸のリビングに入った瞬間、目の前に開ける絶景には驚かされました。壁一面を占める大きな窓の外には広大な日本海が広がり、遙か水平線まで見渡すことができます。

「リビングは、いつも光でいっぱいなんです。でも、北窓なので、すぐくまぶしいということはないですね。」

こんなところにも土地の方向、季節や一日による光の移り変わりを考えた設計がなされています。窓から見える風景の中で、いちばん好きな時期の海を聞いてみました。

「夏もきれいだけれど、5月は海が優しい色になるから好きだなあ。天気が穏やかなGW前もきれいに見えます。冬から春になる時期も色が変わるんですよ。春の海になってきたとか、今日は荒れているとか、いつの間にか分かるようになりました。」

美しい風景写真のように、移り変わる海の色。その変化を楽しめるリビングは、部屋の広さ

と吹き抜けのバランスなど構成がすばらしく、居心地のよい空間となっています。また、コンパクトな中に様々な工夫も隠されていました。たとえば螺旋階段。

「これ、材料が水道管なんです。通常の螺旋階段をつけるよりコストを押さえることができました。水道屋さんが組み立てて、板金屋さんが溶接して、大工さんが板をつけて、すべて一から造ったので大変でしたが楽しかったです。」

作り付けの家具をあまり置かないようにしているのも、暮らしの知恵のひとつです。

「置き家具で模様替えができるようにしています。季節によってテレビを窓側に置いたり、ちょっと角度を変えたり。それから、リビングの横は壁のように見えるけど、収納スペースになっているんです。普段使わないものは、この中に収納しています。」

無駄なモノは置かないシンブルを暮らしの中で、存在感を放っているのが薪ストーブ。



(写真) 1. 薪ストーブで料理も作ります。2. 水道管を再利用し、コストの安い螺旋階段をつくりました。3. テーブル横の小さな小窓に海をバックに並ぶ可愛いインテリアたち。4. リビングからは水平線が存分に眺められる。5. キッチンの前にテーブルを置き、大勢の友人と会話を楽しみながら料理します。



この空間を暖めるには薪ストーブしかないと思って取り付けたそうです。冬は大活躍してくれて、部屋のどこにいても暖かいとか。

竹口さんはお料理が大好きで、その腕前は友人の折り紙つきです。薪ストーブの上でお肉を焼くなどのメニューもお手の物。おいしい手料理と海の見える風景。このような空間の中でゆつくりと過ごせるので、いつも友人たちが集まるそうです。今後とも千客万来の家になることでしょう。

「自分が帰りたくなる家は、どの方へ、アドバイスをしてもらいました。」

「帰りたくなる家にしてほしいですね。自分の趣味趣向をふんだんに取り入れて、家に帰ったらこれが見たいとか、あれがしたいとか、思い描きながら楽しんでください。」

また、予算がないからできないではなく、あきらめないこともポイントとして挙げておられました。その際は、夢や理想をどうしたら形にできるか、建築家としっかり相談し合うことが大事です。

みんな家だろって想像してみてください。帰ったら面白い家、自分がくつろいで楽しめる家にしてほしい。ただ寝るだけに帰っても仕方がないですから。」

やはり新しい家で楽しく過ごすことは、仕事への活力源にもなります。そして、明日もがんばろうと思えるような家には人が集まってきます。取材日、竹口邸の食事会も盛り上がりつつありました。くつろいで楽しむ仲間たちを、窓の外に広がる春の海が優しく見守っていました。

(写真) 6. 綺麗な景色、おいしい手料理、大好きな友人たちと一緒に食事ができる幸せ。7. 玄関に入るとこの家の手書きの図面がお出迎え。8. 竹口さんのとっても美味しい手料理たち。9. ベランダでとどろき海沿いの風が心地よく、眺めも壮観です。



IMAGE MARKS

住む人がどう遊び、どう生きるかが最も重要と考える。手書きで図面を行い、個性的で味違う家づくりにこだわっている。

www.kowakensetsu.jp





「イメージは新婚旅行で訪ねたフランス。テラスはマルシェの雰囲気を出したくて、タイルを敷きました」とおっしゃる奥様。この開放感あふれるスペースで、仲間とバーベキューや音楽の発表会をしたいそうです。

2階には子ども部屋とお風呂があって、広々としたベランダでは日光をいっぱい浴びながら布団を干したり、昼寝をしたり、夜は星を見ながらお酒を…。子どもたちと星空の下でキャンプだって出来そうです。

家族みんなが、いつも集まってくるのはキッチン。幅の広いカウンターテーブルが設置され、子どもたちが遊んだり、宿題をしたりしています。

「僕はここにパソコンを持ってき

て仕事をしたり、自然と家族が寄り添う空間になっています。料理をするお母さんが近くにいるから、子どもたちも家事を手伝いたいという思いに自然となるようです。

そう語るご主人はカウンターテーブルの後ろにお酒を並べ、ちよつとしたBARの雰囲気も演出されています。

「子どもたちはご飯を食べたら2階に上がり、お風呂に入って歯磨きしてそのまま寝ます。僕たちは1階に降りて、夫婦水入らずの時間を過ごします。この家では夫婦の寝室から上を向くと、子どもたちの寝室が見える。リビングにいたら音楽室から音色が聞こえてくる。ただのリビングやキッチンではなくて、常に

ながっている。そんな安心感があるんです」

これから家を建てられる人へ、アドバイスをいただきました。「家は一生つきあっていくものだからこそ、工務店さんなどにまかせっきりにしないことです。やりたいことを話して、一緒にくついで話してほしいですね。家族、工務店さん、設計士さんなど、たくさんの方のアドバイスを聞けば、色々な人のアイデアが詰まった思い入れのある家になると思います」

最近、子どもたちはテレビをつけなくなり、いつも走り回って遊ぶようになったそうです。ソラマドで暮らし始めてから、ご家族みんなで心豊かな暮らしを満喫されています。

詳しくは、WEBへアクセス! [mekke.applive.com] [暮らしメッセ 掲載](#)



Life-labo Tottori  
株式会社ホームライブラゴ鳥取  
ソラマド事業部

「ソラマド」それは、建築家とともに楽しみながらつくりあげていく住まいのカタチ。

www.soramado-tottori.com



# 星空の見える家

ソラマドの家

真っ青な空、あかね色の空、雨に染まる空…。空を見上げながら暮らす。それは、どんなに心豊かなことでしょうか。「空にむかって開いた大きな窓」が印象的なソラマド。錦織家の4人家族は、そんな家に暮らしています。

OWNER | 家族の姿が見えて、フルートが聞こえて、空を見る。そんな瞬間が、しあわせです。

ソラマドとは、建築家・井内清志&アトリエSORAによる、新しい暮らし方として提案されているデザイン住宅です。

空を見て暮らす。それも、ソラマドが大切にしていること。錦織邸にも大きな窓がたくさんあって、家の中の様々な場所から空を見ることができ、夜になると星空もきれいです。

まず、玄関を入るとテラスが広がっています。ここを中庭のように開いて1階にはリビング、キッチン、ご夫妻の寝室のほか、フルートの先生をされている奥様のための音楽室もあります。



owner/錦織さん

owner/錦織さん

カウンターに家族が集まってくるから毎日の料理が楽しくて。

子供たちだけでなく、僕たちまでもわくわくしてしまう。



# 自然を楽しむ家

>有限会社 尚建工務店

人一倍こだわりが強く、家造りに対しても妥協はしなくなかったと言う定光夫妻。ロケーションが良いからという理由では無かった土地選びも、今となっては大きな意味を持っています。

## 周

周 囲に建つ家は、築20〜30年の古い邸宅ばかりだろう。か、細い田んぼ道を住宅が途切れるまで走ると、塗り壁の優しい風合いと木材の質感がマッチした、和の外観にこだわった定光邸が見えてきます。「ロケーションが良いと言うより、田舎暮らしって感じてしまう」と言う定光夫妻は、田舎と山々が連なる景色。視界を遮る物は何も無く、自然の豊かさを全身で感じることが出来ます。多少の不便には目をつむっても余りある程の価値がある「田舎暮らし」はあ

自分達の理想を叶えてくれる工務店を探し回っていたと言う定光夫妻。尚建工務店の谷口社長と出逢い、この人なら自分達の希望を全て形にしてくれると感じたそうです。妥協せずにお互いの意見を何度も交え、建材一つの色や質感にまでこだわった結果、理想を超える家に暮らせたこと笑顔で語ってくれました。室内には一体感がある中にも、段差や素材で空間としての変化を持たせたいという夫妻のこだわりが随所に見られます。夫妻が口を揃えて「一番気に入っている」という、リビングから一段



owner / 定光さん architect / 谷口さん

細かい所までこだわって妥協しないで良かった。  
二人の理想を形にする事を一番に考えました。

## OWNER | 出掛けても、すぐ家に帰りたくなってしまうんですよ。

下がった土間からは、すぐ庭に出る事が出来ます。庭を眺めながら、田舎ならではの土地の広さを活かしたガーデンや、まだまだ未完成のエクステリアを妄想しながらコーヒーを飲む時間が一番癒やされると教えてくれました。将来、子供が出来た時にはここから幸せせらうなと感じずにはいられない、理想的な環境がそこにはありました。自分達が理想とする家を作ったことで、夫婦の関係が更に深くなったという定光夫妻。休日どこかに出掛けても、すぐに帰りたくなってしまう程、愛着のある家で、二人一緒に過ごしている時が一番の幸せだと言う定光夫妻から「帰りたくなるお家をつくる」のキャッチコピーを掲げる尚建工務店が目指す家造りの姿勢がしっかりと伝わってきました。自然を隣に感じながら、自分の理想とする住宅に暮らす幸せは、利便性や機能性から少し視線を変えた所であって、そこでは時間がゆっくりと流れ、心を穏やかにしてくれる空間なのではないかと思えます。

詳しくは、WEBへアクセス! [mekke.applive.com] 暮らしメック 掲載



(写真)1.二人のこだわりの土間は、一番の憩いの場。2.一見するとシステムキッチンの様だが、天板以外は全て大工さんの手仕事による物。3.視界を遮る物がないバルコニーからの景色。4.廊下の床はヘリンボーン貼り。通常の三倍の手間が掛かる。5.空間の仕切りにアンティークガラスを使用。光の乱反射が美しい。



尚建工務店

クライアントの要望を100%叶える事を目標とした家造りを信条とし、それを形にする技術力と発想力の高さには定評がある。

www.syo-ken.jp

